

## ◆地域や関連団体、小学校と連携した道徳教育の推進

地域の特産品として有名な「真崎わかめ」の養殖体験に、地元漁協の協力を得ながら取り組みました。総合的な学習の時間に実施しましたが、関連する内容項目を全職員で共有し、意図的、計画的な道徳教育となるように進めました。



### 【生徒の振り返り】

- わかめの種苗体験（2学年）
  - ・わかめの種苗が無事に育ってくれて感動した。
  - ・この種苗が田老の海で立派なわかめに育ってほしい。
  - ・この取組を通して漁業のために少しでも貢献できればうれしい。
- わかめの加工体験（3学年）
  - ・実際に育てるところから、収穫し、商品として発売されるまでかなりの時間がかかることが分かった。
  - ・やりがいを感じた。家の手伝いを進んでやろうと思った。



### 主な体験活動

- 【1学年】地域の職場体験（13 勤労）
- 【2学年】わかめの種苗体験  
（19 生命の尊さ）
- 【3学年】わかめの加工体験（13 勤労）
- 【全学年】引き渡し訓練（6 思いやり・感謝）  
※小学生と合同

## 研究の成果と課題

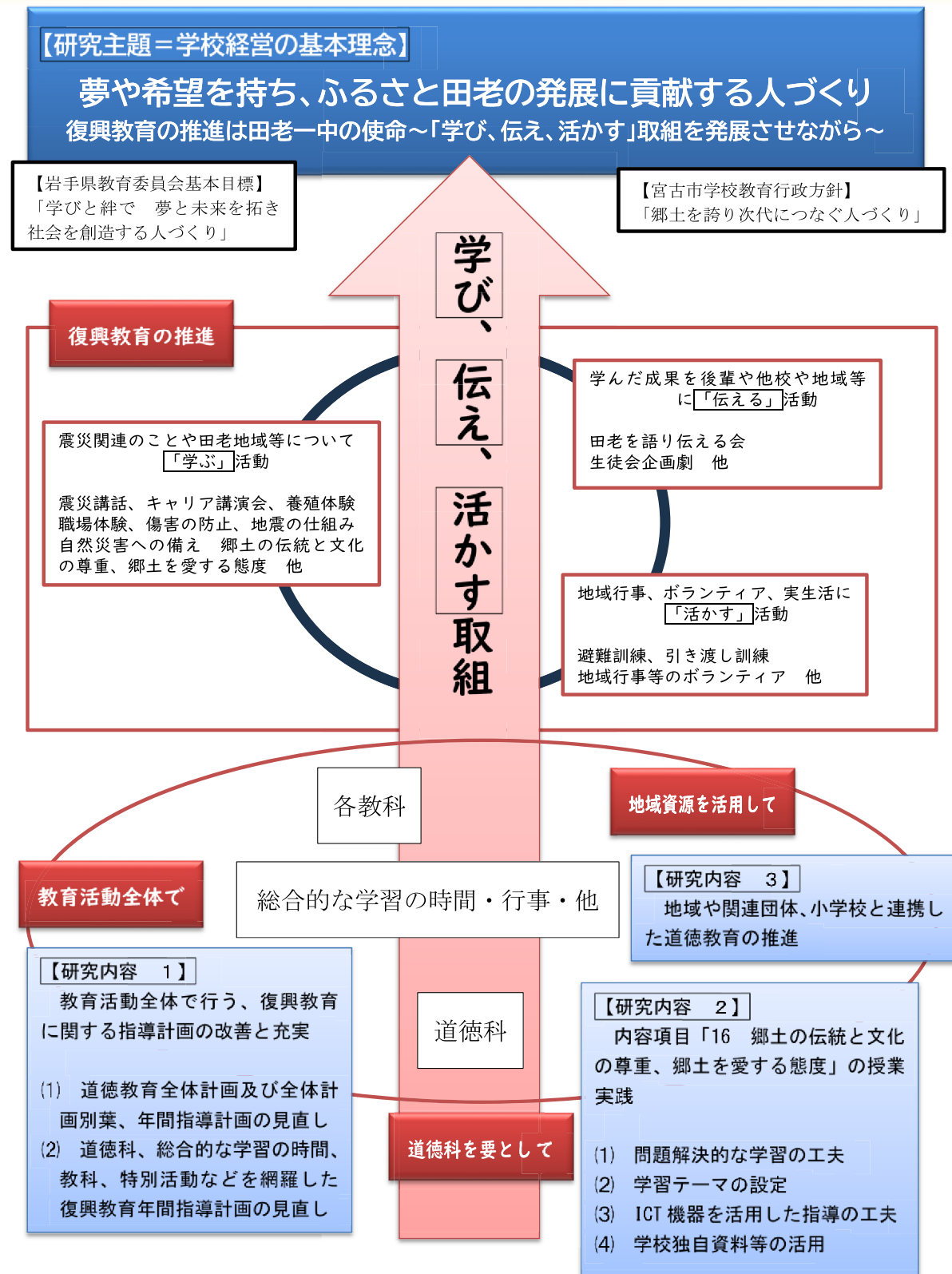
- 「学び、伝え、活かす」のつながりを意識するとともに、ねらいや期待する生徒の姿を全職員で共通理解して指導にあたるために、年間指導計画だけでなく「月別指導計画（〇月の復興教育計画）」を作成し、毎月の職員会議で提案したことが有効であった。
- 問題解決的な学習をする際には、ねらいの達成に向けて、生徒の実態等により「～とは」や「～には」の文型による学習テーマを設定して授業を展開したことが有効であった。
- 道徳科を要とした復興教育の充実の面からは、本校独自の「道徳指導デザインシート」を開発したことは、道徳科の授業と復興教育のつながりを図る上で有効であった。
- 「田老の発展に貢献する人づくり」の面では、本校での「学び」を体験活動に「活かす」とともに田老を愛する地域の方々からさらに「学び」をいただくというサイクルが有効であった。
- ▼研究の目標「1 復興教育において、道徳科を要として『学び、伝え、活かす』取組を進めることを通して、ふるさと田老の発展に貢献する人づくりにつながることを示す。」は達成できたが、「学び、伝え、活かす」のつながりで不十分な面が見られた。今後は、事前や事後の指導について見直し、さらに復興教育に関する指導計画の改善を進めていきたい。
- ▼問題解決的な学習過程を通して、内容項目「16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」の授業を提案することは達成できたが、協働での意見整理、対話や議論の場面での ICT 活用で不十分な面が見られた。今後は、発問や対話形式について見直し、さらに生徒にとって魅力ある道徳科の授業となるよう授業改善を進めていきたい。

## 令和5年度 道徳教育啓発リーフレット

### 子どもたち一人一人の豊かな心を育む 道徳教育の充実を目指して

誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現が求められる中で、その基盤となるのは、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための道徳性です。本県においては、東日本大震災からの復興・発展を担い、岩手や社会全体をよりよい方向に変えていこうとする子どもたちの、豊かな心を育む道徳教育の充実が一層求められています。

そのためには、各学校の着実な取組が必要です。本リーフレットは、令和5年度道徳教育研究指定校である宮古市立田老第一中学校の貴重な研究実践を紹介しています。道徳科を要とした学校教育活動全体を通じて推進する道徳教育の充実に向けた取組の参考として、ぜひ御活用ください。





# 宮古市立田老第一中学校 研究主題

# 夢や希望を持ち、ふるさと田老の発展に貢献する人づくり

復興教育の推進は田老一中の使命 ～「学び、伝え、活かす」取組を発展させながら～

重点内容項目「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」

宮古市立田老第一中学校では、復興教育の要を道徳科と捉え、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を重点内容項目として、各指導計画の改善や授業実践、地域や関連団体と連携した体験活動の充実に取り組んでいます。

## ◆道徳教育の諸計画及び別葉等の改善と充実

### 視点① 年間指導計画の改善

重点内容項目に基づき、年間時数配分を設定しました。

### 視点② 分かりやすい別葉

### 視点③ 「取組月間」の設定

教科他/月	9月	10月
道徳	教材名 「田老を語り伝える会」 内容 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 特質 実話、感動 特別活動 総合的な学習の時間 関連 総合的な学習の時間	教材名 『いのち』を読む 内容 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 特質 実話、感動 特別活動 総合的な学習の時間 関連 総合的な学習の時間
道徳	教材名 「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」 内容 D-(19) 生命の尊さ 特質 実話、葛藤 関連 総合的な学習の時間	教材名 『いのち』を読む 内容 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 特質 実話、感動 特別活動 総合的な学習の時間 関連 総合的な学習の時間
道徳	教材名 13「スマホに夢中！」 内容 A-(2) 節度、節制 特質 生活、知見 特別活動 数学、技術、特別活動、学級活動	教材名 『いのち』を読む 内容 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 特質 実話、感動 特別活動 総合的な学習の時間 関連 総合的な学習の時間
道徳	教材名 14「加山とりの願い」 内容 C-(12) 社会参画、公共の精神 特質 生活、葛藤 特別活動 総合的な学習の時間 関連 総合的な学習の時間	教材名 『いのち』を読む 内容 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 特質 実話、感動 特別活動 総合的な学習の時間 関連 総合的な学習の時間
学校行事	駅伝・陸上 希望と勇気、克己と強い意志 よりよい学校生活、集団生活の充実 新人戦 希望と勇気、克己と強い意志 思いやり、感謝	教育相談 向上心、個性の伸長 文化祭 希望と勇気、克己と強い意志 よりよい学校生活、集団生活の充実 感動、畏敬の念 県新人戦 希望と勇気、克己と強い意志 思いやり、感謝

重点内容項目を扱う時間を赤枠で囲み、復興教育や総合的な学習の時間等とのつながりを矢印で示しました。

重点内容項目に関わる学校行事、復興教育とのつながりを重視し、取組月間を設定しました。

### 道徳教育指導計画（抜粋）

C 主として集団や社会との関わりに関すること			
(10)	遵法精神、公德心	2	1
(11)	公正、公平、社会正義	1	2
(12)	社会参画、公共の精神	2	1
(13)	勤労	2	2
(14)	家族愛、家庭生活の充実	1	1
(15)	よりよい学校生活、集団生活の充実	1	1
(16)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	6	7
(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	1	2
(18)	国際理解、国際貢献	1	1

### 視点④ 教育活動の重点を全職員で共有

#### 【C16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】

- ア 田老地域の人と海との関わり（産業、歴史、災害）に対する認識を深めている。
- イ 田老地域のために自分ができることは何かを考えている。
- ウ 田老地域の発展のために自分が寄与しようとする意識を高めている。

	1 学年	2 学年	3 学年
学	○7/1 道徳 9「ふるさとのために」 「郷土に伝わる教え」 道徳の内容項目 担任設定 ねらい ふるさとのために自分は何ができるのか考える。また、「津波でんご」の教えについて理解を深める。	○7/5 学年交流「田老を語り伝える会」① C16【できることを考えている】 ねらい 八幡平市立西根第一中学校との交流を通して、自分の生き方、地域との関わりについて考える。	○7/11 道徳 8「郷土に息づく心」にふれて 【C16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】 ねらい 郷土の人々や土地を愛し、誇りを持って大切にしている「私」の姿に共感することで、郷土の自然や文化に愛着を持ち、先人に対する尊敬や感謝の念を深めるとともに、自らもその発展に努めようとする心情を育てる。 C16【できることを考えている】
伝			

各月の教育活動の重点を全職員で共有することを目的に、研究主任と道徳教育推進教師が連携し、月ごとの復興教育計画を作成しています。

#### 【先生方の声】

- 各教育活動と道徳教育の関連を意識できるようになった。
- 「地域に対する認識を深める」や「自分ができることは何かを考える」のようにねらいを焦点化することで、活動を通して目指す生徒の姿を明確にもちながら指導できるようになった。

## ◆要となる道徳科の授業改善と実践

### 視点① 問題解決的な学習の工夫

生徒一人一人が道徳的な課題に対する答えを導き出し、学習や自己を振り返ることで、道徳性を養う学習過程となることを重視し、学習テーマを設定した問題解決的な学習となるよう工夫しました。



### 視点② 学校独自資料等の活用

田老第一中学校には、東日本大震災当時の先輩が残してくれた「津波体験作文集『いのち』」があります。この作文集や震災を題材とした生徒会企画劇など、学校のこれまでの復興教育取組の財産を独自資料として道徳科授業への活用を図りました。



### 学校独自の授業デザインシート（抜粋）

目指す授業像（どんな授業を目指すのか）		
【本校として】 ・生徒一人ひとりが、道徳的価値についての理解に基づき、自己を見つめ、物事を広い視野から多角的に考え、人間としてよりよい生き方についての自覚を深めようとする授業を目指す。	【授業者として】 ・震災当時の様子や当時の中学生の心情に対する理解が不十分であることを自覚し、他の地域の人達に田老のことを伝えるためには、自分達が主体的に田老のことを学ぶ必要があると実感させる授業を目指す。	
3 道徳授業の充実に向けた3視点（どのように学ぶか）		
①学校独自資料等の活用 本授業で活用した学校独自資料は、令和4年度一中祭生徒会企画劇「行先へ繋いでいく想い〜」の脚本と映像である。生徒会執行部が震災当時の中学生にインタビューを行い、それを基に脚本を作成し、全校生徒で創り上げた劇である。今の中学生が当時の中学生の想いを更に未来へと繋いでいこうとする姿が描かれており、ねらいに迫ることが期待できる。	②問題解決的な学習の工夫 震災の記憶がない自分達が大切にしなければならないことは何かを考えさせるために、「使命を果たせる田老一中生になるには？」という学習テーマを設定する。 主人公の心情を考えたり、自分事として捉えたりする過程を経て、最後に学習テーマをもう一度取り上げ、最終的な自分の判断をまとめることで、これからの課題や目標について考えさせる。	③ICT機器を活用した指導の工夫 【活用する学習場面】 C1 発表や話し合い 考えを提示・交換しての発表や話し合い C2 協働での意見整理：複数の意見や考えを議論して整理する活動 【活用方法】 一面的な見方から多面的な見方へと発展させるため、ロイロノートを活用して個人やグループの考えを提出させ、全体で共有する。
6 復興教育との関連（復興教育をどうデザインするか）		
【C16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】 ア 田老地域の人と海との関わり（産業、歴史、災害）に対する認識を深めている。 イ 田老地域のために自分ができることは何かを考えている。 ウ 田老地域の発展のために自分が寄与しようとする意識を高めている。	【一中祭生徒会企画劇】 「東日本大震災」をテーマに、田老人の生き様や田老への強い想いを伝え、過去から現在、そして未来へ中学生が繋いでいくことを保護者や地域の方に表現する。（10月） 【総合的な学習の時間のまとめ】 ア 授業参観で保護者の方に総合的な学習の時間の学びの成果を発表する。（2月）	【後期生徒会への取り組み】 ア 生徒会役員選挙への取組（10月～11月） 【田老での職場訪問】 ア 田老にある職場を訪問し、体験を行う。（10月） 【地域行事等への参加】 ア 田老体育大会での選手・役員・ボランティア（10月） イ 資源回収ボランティア（1月）

### 視点③ ICT機器を活用した指導の工夫



協働学習の場面において、可視化による活性化をねらいとし、主に以下の点で活用を図りました。

- 考えを提示・交流しての発表や話し合い
- 複数の意見や考えを議論して整理する活動